

京都市長を選ぶ市民の会 発足集会レポート

日時：平成15年6月22日（日）

場所：キャンパスプラザ4階

準備会、意見交換会と並行しながら準備を進め、6月22日をもって発足のはこびとなりました。

第一部の発足集会では、経過報告、会則案の提案・承認、役員を選定を行いました。

第二部は市民活動をされてきたお二人をゲストに迎え、話題提供を受けて意見交換を行いました。

発足集会第二部（概要）

中田作成氏（神戸市）

■今回の京都は、既に会則も用意され、しかも解散まで準備されている。色々見てきたが引き際の用意があるのは初めて。組織的にも準備の手順をきちんと踏まれている。敬意を表したい。

■神戸市は、97年にも市長選をやった。このとき、実質は一騎打ちの選挙で、6,000票差まで迫り、新聞も「大西氏善戦」と書いている。その時の力で2001年の選挙を戦えればよかったが、そうはいかなかった。市は助役一人を候補者に絞り、市民は候補者を5人出した。新聞はその時「市民派迷走、助役市長再び」と報じている。つまり市民派は候補者が乱立し、選挙前から「市民派は負ける」と言われていた。今日はその苦い経験をお話したい。

■京都の会に伝えたい一番の教訓は、「神戸では候補者が乱立した」こと。当初、市民側から7人が立候補しようとした。神戸では、候補者擁立に2つの団体が存在していた。2つの団体は情報交換はしていたが、選ぶ時点でバラバラの行動となってしまった。加えて2つのグループの外からも、「私も立候補する」と出てきて、7人が表明してしまった。

■私はマイナス面ばかり言いがちだが、明るい芽もある。97年の市長選では、大学生を中心に公開討論を連発していた。大学を中心としたこのような取組が、プラスの面といえる。自らマイクを握った女子大生もいた。

■神戸はハイカラなまちと思われるが、実は保守的。このまちをどう変えられるかが私の課題。

松本誠氏（明石市）

■私は元神戸新聞の記者で、明石では5年間暮らした。「まちを良くするためには、市民が力をつけなければ」と、毎月2回の勉強会を開催、14年間明石のまちづくりに関わった。

■私たちは「次の市長選挙の時は、市民のための市長を選ぼう」と言い続けてきた。立候補した人は、私たちが願う市長としては不適格ということで、自分たちで擁立することとした。



（写真左から松本、中田両氏 折田、四方両代表）

■今年2月「市民の市長をつくる会」を発足。同時に選考委員会をつくり、2週間で自薦・他薦の候補者を選んだ。

■私は活動の経過から責任をもって参謀を務めようとしたが、私にやれというので腹を決めた。

■選挙は「出たい人より出した人」だ。「応援してくれ」というのは、おかしいと思う。候補者自身が市民の望む人であるべきで、担ぎ手を大事にすべきだ。

■市民の会ができて、候補者が決まった後も「政党を排除してやっていけるのか」などの議論をした。地方が中央と連携することはあっても、中央が地方を仕切るのは終わりにしよう。そして、

応援してくれるところはどこでも受け入れることとした。つまり、特定の政党を排除した無党派というのは、理論上おかしいということからである。

■選挙に市民が参画することが大事。市民参加の行政を、と考へ「選挙も市民参加」をうたった。市民が

<http://www11.plala.or.jp/shiminha/>

しみんのかいニュース No.2

京都市長を選ぶ市民の会 会報

2003/08/10

連絡先：〒604-0932 京都市中京区寺町二条下る ワカバヤシビル3f プロボノセンター内
Tel&Fax 075(213)1485 (月～金/午後1時～4時) e-mail:shiminha@khaki.plala.or.jp

徳島県県会議員 豊岡和美氏
(徳島県知事勝手連元代表世話人)

・先日、勝手連で担いだ知事候補は、わずか8,000票差で敗北した。投票率も上がり、得票を30,000票もあげたが、残念ながら負けた。その反省をふまえたお話をしたい。

・1999年に吉野川可動堰計画の是非を問い、反対運動を行ったが、議会は聞かない。そこで「まずは市会議員から変えよう」と、後援する人を4人つくった。一方、住民投票では「50%以上の得票を得よう」とがんばり、55%の投票を得た。その内90%以上が「反対」とした。その時市長は、推進から反対の立場になった。一人々が声を上げれば変えることができる。

・このような取組の中で、市民に意識が芽生えた。任期満了の知事選を迎えた時、私たちは「市民の声で知事をつくろう」として、勝手連県民ネットワークを作り、知事選を戦った。この時は負けたが、投票率は49.7%、約1万票差、いい戦いをした。これで私たちは自信をつけた。

・翌年の4月に、知事が汚職で捕まり、再選挙。私たちはいろいろ反省事項もふまえて、勝手連を再結成した。相手候補は無所属の女性。この時太田は16万票を得て、勝つことができた。

・太田が議会により不信任になった際、再選挙に向けて、私たちはまた勝手連を作ったが、3千票の差で負けてしまった。

・選挙ではいろいろ知恵を絞った。プラカードを作って道に立ったり、ステッカーを作って、車に張ってもらって町中を走ったりした。地味だったが、必ず伝えられる。これを信じていれば、一番大きな情報伝達となる。

意見交換（概要）

■市民の手で市長を選ぶというのに興味を持った。私は学生なので何をしたらいいのかよくわからない。

■何でもできると思う。一人だけでも非常に助かる。宛名書き、電話掛けなど、何でも助かる。京都市民は徳島県民よりも数が多い。思いを持った人がつながるのが大事だ。

■取組そのものを盛り上げていく必要がある。韓国の

大統領選では若い人たちがインターネットを通じ活躍した。京都でも若い人の参加で、このような取組を展開するのの一つの考えだろう。



■入会は個人だけなのか。団体での入会も可能なのか。

■これまでの議論では、個人での入会を考えている。しかしその背景に団体のネットワークがあるのは構わないと思う。

■入会の資格について、団体の加入があるのは問題だと思う。憲法で定められている投票の資格は個人。今までの選挙は、団体が構成員を出し、政策は間接的に候補者に伝えられていた。私は個人を相手に話ができる人が好ましいと思う。

■個人の取組は大事。市長選は個人のつながりで動くべきだろう。むしろ団体が動かざるを得ないような運動にしたらいい。

徳島では、可動堰反対という論点があったが、京都市では何を論点とするのか。

■具体的な論点のもとに賛成/反対というのはわかりやすいが、京都では仕組みを作っていくということに意味があると考えている。

■市長に望むことは、まず汚職しない人。新聞は連日汚職問題を伝えている。次に、市民の目線で活動してくれる人。そして、平和都市京都の顔となる人。

■「人」という評価基準は大事。その人の理念を全てさらけ出して、人として選んで欲しい。

■「人」重視はいい話だ。しかし「この人が良い」と「出たい人」との折り合いの難しさがある。

■それぞれの人が、理想の人物像を持っていると思う。それをまとめていくと一つの像が浮かび上がるかもしれない。そして、その中で取組も盛り上がり、投票率も上がってくると思う。

■候補者選びは、非常に大事。それができれば、皆応援する。京都は日本の顔だと思うので、京都が変われば全国が変わる。是非頑張ってもらいたい。

■今回の取組は、お祭りのように賑やかにやっていくことを提案したい。

意識を持って候補者を募り、当選させるのは権利、として取り組むことが大事。

■「1万人の政策提言運動」も行った。明石市有権者23万人弱、投票率は50%程度。この人たちが何を望んでいるのかを知り、まとめようとした。選挙に勝った後、実行していく上でも市民が関わっていくために、提言活動を行った。

■政策は、市民が自分たちの思いを実現するためのものであり、市長はそれを実現するためのコーディネーター。

■選挙は無惨な結果だった。相手が65,000票、私は28,000票だった。この原因は大きく2点、「組織体制の確立の遅れ」と「市民活動と選挙活動は全く違う」ということだ。

意見交換（概要）

■今回の取組は、いままでと違う選挙だ。特定の思想・団体に偏らない人を市長に選ぶことを原則にしていきたい。自分たちが、しっかりした力強いもの、主張を持つことが大事。

■「勝手連」は的を射た言葉と思う。広告塔になる人が、この会の主旨をパッと表現してくれるとよい。市民のための候補を選ぶのだから、市民に広く「市民の会」として認知されればと思う。

■選挙は個人の投票で決まる。市民の会の会員が同じ考えということはありません。市民が、市政の将来をどう考えるか。その考える機会をつくるのが世話人の役割だと思っている。市民の会やそういうグループが、京都市内にいくつもできたらよいと思う。意志を統一するのではなく、自分はこう考えるという一々ピラミッドではない、アメーバが望ましい。

京都市長を選ぶ市民の会

準備会

日時：平成15年5月24日（土）午後6時～9時

場所：京大会館 参加者：約80名

「京都市民が信託できる市長を選ぼう」。これを実現するための会の設置に向けた準備会を開催しました。

会の代表からは以下の趣旨説明がありました。

――過去の市長選を振り返ると、1979年の市長選からオール与党となり、この頃から京都市政は崩れていったのではないかと。共産か与党かという二局の対立でできており、このようなことから投票に行かない人が増加し、投票率は50%を越えたことがない。

投票に行かない人は、いろんな要素がある。政治に無関心の人だけでなく、二つの対立の中で、望ましい候補者がいないから、投票しないという人も多い。市長の選び方を考える余地がある。

現在の市長は、政党が信託している。しかし本来は、市民が信託すべきもの。そのための手続きが無い。今回の取組はこの新しい手続きに向けた取組。他の自治体でも、このような取組が始まりつつある。

今日の準備会は、その体制を作ることが目的。「会の作業をやってみよう」と思われる方を「世話人」としてお願いしたい。

この会は、あくまでも候補者を選ぶことを目的としている会なので、候補者が確定した段階で、一応の使命を終える。しかし、選んだ人に「では、後はお好きに」という訳にはいかないもので、その場合は別途応援部隊を考えていきたい。――

次に、他都市で「市民が信託できる首長を選ぼう」という活動をされた増田・豊岡両氏から話題提供と今回の京都の取組にエールをいただきました。

箕面市市会議員 増田京子氏

・私は、団体組織などには一切入らずに議員になった。そのときから「市民派」を名乗っている。

・市民派とは何か。無党派と市民派は違うと思う。最近では多くの人が市民派を名乗っているが、私は同じ市民派でもその違いを出していく必要を感じている。例えば、会派は作らずに自分で作った会報を出したり、報酬の使途や、政務調査費を明らかにすることになっている。

・前市長は6月議会で辞表を出した。「誰かいい候補はいないか」と探したが、準備の時間がなくて、先輩議員を出した。2ヶ月しかない厳しい選挙だったが、13,000票を得た。ちなみに、現市長は14,000票で、いい戦いをした。反省点もあるので、次の選挙に向けて準備をしている。

・現在、箕面市でも高層マンションなどの計画がある。都市計画で制限をかけて、高さを規制するとの動きもある。箕面市は市民の声を聞く必要があることを徐々にわかってきている。

意見交換会

「私たちが求める市政と市長」

日時：平成15年6月8日(日) 場所：京大会館

5月24日の「京都市長を選ぶ市民の会」準備会を受けて、今回の取組に関心を持っている方、及び京都で様々な取組を展開している方が3つのグループに分かれて、円卓で「市長像」「望ましい京都の姿」について出し合い、意見交換を行いました。

◆Aグループ

「市民が信託できる市長とは」については、リーダーシップをとって行動できる人、平和への舵をとれる人、社会保障を重視する人、いい意味での改革をしてくれる人、弱者の立場に立てる人など様々な意見が出た。市民の意見を聞くと同時に、プロセスを公開することが必要だ、ということも強調された。市民が市政に参加できるような工夫がシステムとして必要で、昼間に参加できない人には夜に参加してもらうなどの仕組みが必要、という声があった。市民が市政、ゴミ、環境問題などに関心を持ち、個人の意識を育てるような教育も必要、という意見。

「どのようなまちを望むか」について。最近では「歩くまち京都」と言われているが、車の規制がきっちりとされて、リピーターが何度も来るようなまちという意見が多い。京都は文化・歴史・学問のまち。それをもっと輝かせるようなまちになって欲しい。また、平和を発信できるまち。外国人の参政権を実現し、自然のエネルギーを発信できるまち。京都の良さを京都の人は見失っているので、それをまず見直すべき、という意見。

また、この取組に関する意見。目標を明らかにする。つまり「勝つ」までを目標とするのか、あるいは「挑戦」を目標とするのか。また集会も今日のような日曜日でなく、他の日にもやって欲しい、という意見。

◆Bグループ

「どのような市長を望むか」については、市民の意見を聞ける人、約束を守る人、汚職をしない人、目線が市民の人、平和に向けた取組をする人、行動力がある人、実行力がある人などが出された。そして「市長だけで行政が動くか」について議論した。つま

り議会のバックがないと、難しいのではないかとということである。議員への働きかけも大事だが、市民と協働していく過程で議員も影響を受けるのではないかと、という意見。

現在、市は市民しんぶんなどを出しているが、途中経過や市長の考え、議員の考えなどはない。結果だけを掲載している。中間報告があってもいいと思うし、またそこに市民が参加してもいいと思う、という意見。

「どのようなまちになって欲しいか」ということでは、風通しのいいまち。また、交通問題が多い。市内中心部への車の乗り入れを禁止するなどの措置が必要ではないか、という意見。

この会については、もっと女性が参加する運動にしていく必要がある。女性が参加できるような、また女性が輝くまちにすることが大事だ、という意見。

◆Cグループ

「望ましい市長像」については、見えないことを見る想像力のある人、市民の声が聞ける人、リーダーシップがある人、知性が豊かな人など、資質の問題について多くの意見が出た。党派のしがらみのない人、紐のつかない人、という意見。

また、私たちは市長を出すだけでなく、なった時にはバックアップできるような場を作る必要があるのではないかと、という意見もあった。この会から議員を出してもいいのでは、という意見。加えて、長野の知事と京都の知事の現状と違いについても意見交換を行った。

「望ましい京都のまち」では、現在の汚い町並みを何とかして欲しい。伝統や文化を取り戻して欲しい。また権力層が持っている文化を庶民に引き戻すことで、まちの活性化が図れるのでは、という意見があった。

野宿生活者の生活の保障や在日外国人等選挙権の無い人の意見を聞くシステムも必要だ、という意見。民主主義のモデルとなるようなシステムの構築、などが話された。

京都は、「環境」を冠にしている、循環型社会システムのあるまちにしたい。映画産業の育成や学生のまちの再現、古都に相応しい交通形態、老人の住みやすいまち、などが話された。

この後、メイン会場に集まり各分科会の発表に基づいて、さらに活発な意見交換が行われましたが、紙幅の関係で省略させていただきました。(編)